

平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム小本

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000070		
法人名	有限会社 介護施設 あお空		
事業所名	あお空グループホーム小本		
所在地	岩手県岩泉町小本字南中野295		
自己評価作成日	平成 26 年 9 月 9 日	評価結果市町村受理日	平成27年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0393000070-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 26年 9月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境の中、皆様が安心して過ごせるように努めています。
地域の方々や併設の小規模多機能センターの利用者様や職員と行事等を通じて交流ができるようにしています。交流を持つ事で、お互いに理解し合い、信頼し気軽に声を掛け合えるように動めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは同一会社の小規模多機能センターあお空と高齢者専用アパートに隣接して23年2月に開設され3年半経過している。利用者が自分にできそうなことにチャレンジし、やり遂げた喜びを味わえるよう支援しており、洗濯物のたたみ、お茶当番、米とぎ、茶碗洗いなど、各自が行うことを「役割分担表」としてホールに掲示し、利用者は進んで自分の役割を果たし、生き生きと楽しそうに活動している。また、出来るだけ利用者の願いを聞き出して行きたい所や馴染みの場所への外出希望を叶えているほか、保育園児や小学生の来訪、中学生との相互訪問交流の機会が多く設けられ、利用者の楽しみのひとつとなっている。地域の復興やコミュニティの復活も進んできているなか、職員は地域の高齢者介護の担い手として地域との繋がりを大事にしたいとしており、地域との活発な交流が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : あお空グループホーム小本

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念に基づいたケアを心かけている。	「利用者に心のこもったサービスを…」の理念の実践に向け、「寄りそう心を大切に、いつも笑顔でおはよう、お疲れ様、ありがとう」のスローガンを作成し、ミーティングで読み合わせて確認・共有するとともに、お互いの対応を振り返りながら理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地域消防団の定期巡回を受けたり、お祭りの見学・小中学校や保育園等の交流があります。施設への訪問のほか、学校行事に招待を受けて参加している。お祭りの際に施設の庭先まで踊りの行列が立ち寄ってくださる。	保育園児や小学生の来訪、中学生との相互訪問交流が活発である。地域のコンサート等も見学し、祭りには庭先で七頭舞の踊りも披露される。近隣の人達とは「夕涼み会」に招いたり、日常的に散歩の際や玄関先ベンチで日向ぼっこしながら楽しく言葉を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行ってはいないが、日々の散歩や行事の参加等で理解してくれていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	推進委員の方々に、小さな事でも問題提起し地域ならではの意見等を頂きサービス向上に生かしている。	隣接の「小規模多機能センターあお空」と合同で実施しており、活動状況や利用者の状況、運営上困っていることなどをありのままに説明し意見を貰うようにしている。委員は問題意識をもって積極的に意見等を述べている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の構成員でも有り、協力関係がしっかり出来ている。	主に包括支援センターと連絡を取り、運営推進会議やケア会議を通じてケアの状況等を伝え、指導助言や情報提供を頂いている。申請書類等は利用者と一緒に歩いて隣接の役場支所を訪れて提出し、馴染みの職員は利用者によさしく声をかけてくれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『研修』を定期的に行い職員間でも理解し合い注意していると思う。現在は身体拘束は行っていない。	年1回、言葉による拘束も含めて身体拘束に関する勉強会を実施し身体拘束をしないケアの理解・認識の徹底に努めている。利用者の気分が落ち着かない場合はそっと見守ったり、ドライブに誘ったりして気持ちが和らぐように支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会が必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に研修会で学んでいる。実際に利用されている利用者様も数名いらっしゃるの理解していると思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明し納得されたうえで契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事に来所された折に要望等をしっかり聞くように努力している。	利用者との日常の会話、家族との面会や通院時、行事等に来所の折に願いや要望、意見を引き出しケアに反映させるよう努めている。家族には年4回程度、広報誌と併せて利用者の暮らしぶりや健康状態を記した手紙を送付し安心して貰えるよう努めている。	家族とのコミュニケーションを築きながら意向等を聞き出していますが、今後も色々な手立を工夫し、忌憚のない意見・要望等を把握して運営やケア向上に活かされるよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見や提案を出し合い日々の業務に反映出来ている。	毎月の業務ミーティングでは職員は管理、業務運営全般について活発に意見や提言を述べている。「トイレトペーパーを利用者の使い易いがさチリに替える」、「部屋の掃除はリネン交換時に重点的に行う」などの提案は直ちに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	務めていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、学んだ事を他の職員へ伝講する等このスキルアップが出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所から数名ずつ集まりスポーツ交流会が喫しされた。他の事業所間で職員を交換し、業務を体験したり交流を持つ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	◎利用開始前に家族やご本・ケアマネに面接をし集めた情報を職員間で共有している。 ◎個々の思いをしっかり受け止め、安心できる関係作りに務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	◎利用開始前に家族やご本・ケアマネに面接をし集めた情報を職員間で共有している。 ◎利用相談時から入所まで、しっかり話を聞き不安や要望を受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のご本人の心配事に耳を傾け、御本人のやりたい事や出来ることを考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から職員に助言や手助けをしてくださいます。共に暮らしているという実感があります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方のご家族には広報にお手紙を添えて近況報告をしている。とても喜ばれています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人が逢いたい方(ご近所で付き合いの長い方)に声を掛けて、近所を通った際などに自由に来ていただけるようにしている。	独居の利用者が多く、出来るだけ本人の希望を聞き出して自宅や馴染みの場所に出かけるよう支援している。面会や行事、祭り等で家族や親戚、知人等と会った際は「是非また会いに来てほしい」と声をかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席を考え、孤立せず支えあえるように務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービスや入院治療等が上手く受けられるように、情報の提供をしている。要望があれば可能な範囲で相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人一人はコミュニケーションを通じて希望や意向の把握に努めている。	更新しているフェイスシートの情報と併せて、日常の会話や表情から注意深く本人の思いや意向の把握に努めている。自分の思いや希望を表現出来る人が多いなか、本人の好きなように暮らすことを基本にしながらも、出来ることをやってもらい活動意欲につなげるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴・環境に合わせ支援している。(衣類・排泄・会話など)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のサイクルの中でその方の心身状況をしっかり把握し、意向を受け入れていくよう努める。毎日のミーティングや申し送りノートを活用し変化を見逃さないように務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、緊急カンファレンス等で課題とケアのあり方について話し合うようにしている。	介護計画は利用者・家族の意向をベースに計画作成担当者が作成しており、その後職員カンファレンスによる状況確認、課題の検討を経て、評価・見直しは3か月後、6か月後に行っているほか、状況変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	トク編・気づき・家族への連絡内容等を記録に残し(申し送りノートの活用もある)職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員一人一人が知り得た情報を共有しあえるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な限り地域の行事や催し物に参加楽しんで頂くよう務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	十分出来ている。必要な時は職員が診察に付き添い情報を提供することもある。	利用者の殆どは協力医療機関である岩泉町済生会病院をかかりつけ医としている。受診対応は原則として家族に依頼し、家族に事情等がある場合はホームで対応している。医療機関、家族とは利用者の状態を正しく伝え、信頼関係を築きながら適切な医療受診が行われるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の少しの変化や気づきを常に報告・相談をし、助言を受ける体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院決定後、早い時間に面会し情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の考え方をお聞きし説明を十分にしている。	「重度化した場合における看取りの指針」を作成し、利用者・家族の理解、同意の下、医療行為を除き最大限可能な支援を行うこととしており、利用者の状況に応じて家族と話し合いながら対応している。今後は先進的な取り組み等も参考に工夫・研究し、重度化・看取り介護の実現に努めたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	確実に実践できるよう救急講習を受講している。(近所の職員の緊急連絡網を作成してある)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が避難方法を身に付けている。地域の協力体制(ご近所・消防団・役場支所職員)が出来ている。	震災時に利用者・職員全員が避難所に無事避難できたことは防災への励みに繋がっている。夜間想定消火・避難訓練を消防署立会いの昨年2回実施しているほか、独自に職員の通報訓練も行っている。居室が2階で非常階段もあるが、避難誘導が課題である。	災害時には地域住民の協力が不可欠と思われるので、今後は近隣住民との協力体制を築くとともに、過去の訓練を活かし更に効果的な訓練を工夫しながら利用者が安全に避難できる方法を身に付けられるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄、入浴時特に御本人を尊重した声かけや対応を努めている。	支援次第で自己決定できる利用者も多く、自尊心を傷つけないよう気配りをしている。特に入浴介助やトイレ誘導には本人の気持ちを尊重しながら、さり気なく支援、介助を行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな事でも御本人と話し合いながら支援をするようにしています。思いや希望を気兼ねなく伝えられるような雰囲気作りを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課以外にもその方の考え方や希望・生活リズムに合わせた支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整容、床屋や美容院へ出かける等御本人やご家族の希望に沿って支援しています。行事の時など『たまにはお化粧したい』などの希望が叶うように施設でも化粧道具を揃えてあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を取り入れ(季節の食材をふんだんに使い)個々の好みに合わせたり、積極的に調理に参加していただき、満足感を感じる事ができるよう支援しています。	食事は栄養バランスに配慮し利用者の希望も聞きながら職員が交替で作り、季節の食材をふんだんに取り入れている。食事の手伝いは、下拵えや食器・テーブル拭き、下膳など利用者それぞれが自分に出来る役割を担い喜びを感じられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みに合わせて支援している。水分量や食事量を記録し水分や栄養を確保出来るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の入れ歯の洗浄(入れ歯・歯ブラシ・コップの消毒)個々に合った口腔ケアの声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせたケアを心かけている。	排泄面は自立している方が多いが、場合によりさり気なくトイレ誘導して支援している。夜間は安全と安眠のため半数の人はポータブルトイレを利用している。おむつ使用はなく、リハビリパンツから布パンツに改善した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	◎排泄チェック・食事や水分補給の工夫・軽体操や散歩の誘導を心かけている。 ◎町の特産のヨーグルトをおやつやデザートで召し上がって頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの要望に合わせ、時間や入浴日を決めています。入浴できない時は清拭や足浴を行い、入浴を強制する事は無い。	入浴は週2回、午後に入浴して貰っている。気乗りのしない場合等は清拭や足浴で対応している。入浴中はリラックスして何でも語ったり、歌を口ずさんだりして心地よい気分で過ごせるよう雰囲気づくりに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる環境(室内灯の明るさや夜間のトイレが頻回な方には居室移動)を考えて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定規薬や臨時役を把握し(個人ファイルに薬の内容や受診内容を綴っている)職員間で情報の共有に努めている。個々の体調を観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	通院時(定期)にお買い物や外食の機会を作り、お出掛けの楽しみや気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠方から入居している方の自宅を見に行く、時には溜まっていた郵便物を持ち帰る事もある。希望の方々も一緒にドライブという形で希望にそえるよう努める。	静かな住宅団地内の日常的な散歩のほか、公民館でのコンサートの鑑賞や田野畑、宮古、龍泉洞等の海山の景勝地等へのドライブ、花見、サクランボ狩り、紅葉見物等に出かけたりしている。季節ごとの衣料の買い物や個々の希望に応じた買い物などにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週一回の移動販売車や近所の商店に買い物に同行された際に買い物を楽しまれる。預り金は事務所で保管が必要な時にお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	◎希望があった時に電話している。時には『TV電話』を使用することもある。 ◎子機を使い部屋でゆっくり会話を楽しんで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	◎季節の花を飾るようにしている。 ◎ゆったりとくつろげる共有スペースを確保している。 ◎室温や湿度に注意している。(冬季は衣類を着ることを考慮した気温)	ホール兼食堂は窓が正面、側面の2面あって明るい。ホールにはテレビ、ソファの外、利用者各自による季節の生け花や行事写真、共同作品、ユーモラスな「口内運動」の絵などが飾られ、仄々とした温かい家庭的な雰囲気がある。健康管理上、冬季の室温は出来るだけ温度差がないよう20度前後の低めに設定している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見たり横になったり、居心地の良い空間を作るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも側に置いておきたい物を職員もしっかり理解し、御本人が落ち着ける環境を作っている。(お仏壇を備え花を飾る方もいらっやいます)	部屋にはエアコン、ベッド、クローゼット、小タンスが備え付けられている。室内には馴染みの置物や仏壇を置いたり、自分の作品や写真などを飾ったりして、思い思いに居心地良く暮らせるよう工夫が見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の力を理解し、自立できる工夫をしている。例えば、押し車の利用。下肢筋力のある方は見守りの中で階段の昇り降りをしています(昇り降りの安全が確認出来るまでは、付き添います)		